

# 社会学

(第11講)

メディアとコミュニケーション

～自分を伝えるコミュニケーションから、  
自分が変わるコミュニケーションへ～

伊藤 嘉高

山形大学医学部・医療政策学講座

[h-itoh@med.id.yamagata-u.ac.jp](mailto:h-itoh@med.id.yamagata-u.ac.jp)

講義資料：<http://www.h-ito.sakura.ne.jp/lect.html>

## 今回のテーマ

- 人びとの相互行為(相互作用)によって、さまざまな社会が形成され、そして、さまざまな人間が形成されている。
- 人びとのコミュニケーションには、さまざまなかたちがある(声、身振り、新聞、電話、テレビ、インターネット.....)。
- そうしたコミュニケーション手段の変化によって、私たちの相互行為はどのように変わり、そして、社会はどのように変わってきたのだろうか。



**社会と人間の形成にとって、望ましい  
コミュニケーションの条件を考える。**

# コミュニケーション＝情報のキャッチボール？



## ■ 一般的な考え方

- ✓ コミュニケーションは、**〔目的〕**があり、特定の目的を達成するためのものである。
- ✓ コミュニケーションは、**〔直線的〕**である。
- ✓ コミュニケーションは、常に送り手側から始まり、**「伝達されるもの」(〔情報〕)**は送り手に属する。

# さまざまなコミュニケーションの類型

## 1. マス・コミュニケーション(mass communication)

一方向的

○マス・メディアから大衆への大量情報伝達

✓待合室のテレビや雑誌



## 2. 中間的コミュニケーション

情報伝達に偏る

○専門家による(組織内の)情報伝達

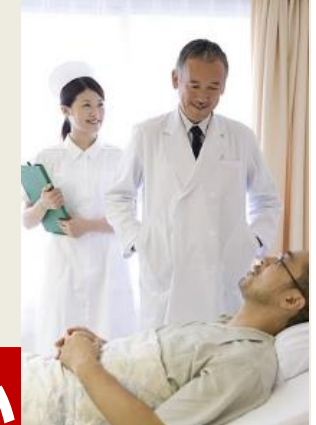
✓医師のオーダー・処方箋・カルテ、看護記録



## 3. パーソナル・コミュニケーション

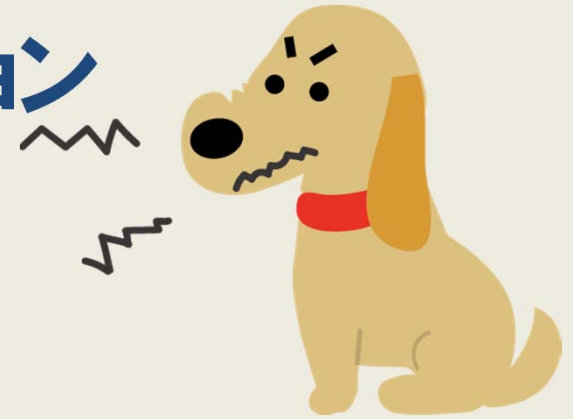
○少数の人びとからなる対面的交渉

✓患者・家族と看護師・医師との対話・面談



一方向的な情報伝達は、1と2に見られるに過ぎない

# 原初的コミュニケーション



## ■ 例: 犬のけんか(夫婦げんか)

1. はじめにAが攻撃的な姿勢を取る。
2. Aの仕草が犬Bに対する刺激となり、Bの攻撃的な反応(うなり声や威嚇的な仕草)を引き起こす。
3. Bの反応がAに対する刺激となり、Aが激怒する。  
(「売り言葉に買い言葉」)

シーン2で、BがAの姿勢を自分に対する攻撃の構えとして反応したことで、Aの身振りの意味が決まっている。

送り手から出される情報の意味は、  
受け手の反応行動にある。

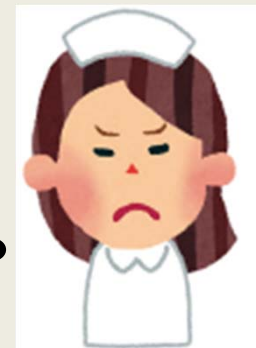
# 言葉によるコミュニケーション

- コミュニケーションのもつ意味は、ジェスチャーや言葉を発する人間の心のなかにあるのではなく、**コミュニケーションのプロセスそのもの**のなかにある。
- ✓ ただし、言葉を発そうとするとき、人は、その言葉を**自分の心で聞くことができる**(〔**自己反省性**〕)。
- 相手に引き起こす反応を自分のなか引き起こすことができ、(過去からの学習によって、)その言葉によって生まれる**コミュニケーションの意味を予測**することができる。
- 人は、コミュニケーションがもたらすものをより良いものとする言葉を発することができる。
- 人の心が言葉とコミュニケーションを生み出すのではなく、**言葉とコミュニケーションが人の心を生み出す**。

■ 入院患者A「Bさんは私の担当なのに、全然、私の話を聞いてくれていませんよ！ 患者の気持ちを考えたことがあるんですか！」



A) 看護師B「ありますよ！ いつも考えていますよ。だけど、他にもたくさんの患者さんがいるんですよ。Aさんの話ばかり聞いてられないんです。すみません。」



B) 看護師B「Aさんのおっしゃるとおりです。いま、Aさんの言葉を聞いて、申し訳なく思っています。私も心の中では気にしていて、でも、他にもたくさんの患者さんがいるので、どうしても時間が取れないんです。でも、限られた時間なんですけど、Aさんの話をできる限り聞けるようにしたいと思います。またあとで来ますね。」





# [非言語的]コミュニケーション

■ **非言語コミュニケーション**: 話しぶり、表情、ジェスチャー、相手との距離など

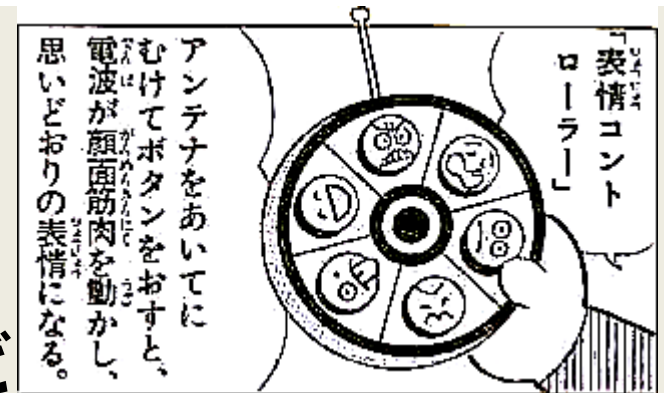
○ **対人コミュニケーション**: 言語メッセージが占める割合は35%程度、**残りの65%**は非言語メッセージ。

○ 7%が言語、38%が**音声の特徴**、55%が**顔の表情**という研究もある。

**非言語コミュニケーションが圧倒的に重要。**

■ **非言語的コミュニケーション成功のために**

1. 解釈を急がないこと(思い込みによる早まった解釈)。
2. 自分の非言語コミュニケーションに気づくこと。
3. 相手の非言語コミュニケーションに合わせること。





## [ダブル・バインド](double bind)

～言語的メッセージと非言語的メッセージの矛盾～

分裂症の強度の発作からかなり回復した若者のところへ、母親が見舞いに来た。喜んだ若者が衝動的に母の肩を抱くと、**母親は身体をこわばらせた。**

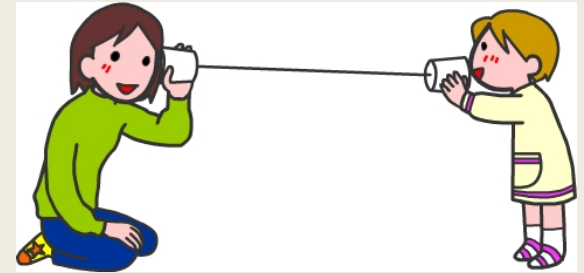
彼が手を引っ込めると、母親は、「**もうわたしのことが好きじゃないの？**」と尋ね、息子が顔を赤らめるのを見て「そんなにまごついちゃいけないわ。自分の気持ちを恐れることなんかないのよ」と言いきかせた。

その若者はその後ほんの数分しか母親と一緒にいることができず、彼女が帰ったあと病院の清掃夫に襲いかかり、ショック治療室に連れていかれた。(G・ベイトソン)

ダブルバインドによって、人間はつぶれてしまう  
(あるいは人格が支配される)。

# メディアとは

○メディア(媒体: media):  
人間と人間・物の間に立ち、人間と  
人間・物の相互行為を[媒介]するもの  
(コミュニケーション・メディア)

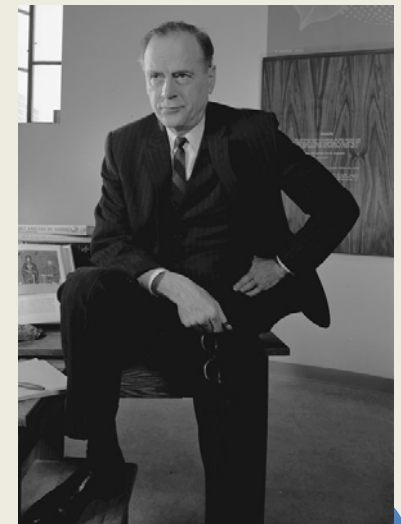


✓ 話し言葉、文字、書物、  
写真、電話、マスメディア、  
マンガ、インターネット、衣服



○M・マクルーハン(メディア論の生みの親)  
「メディアは[メッセージ]である」:

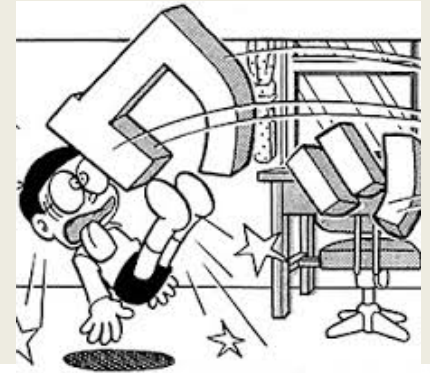
メディアそのものが、運ぶメッセージとは別に、  
人間の経験や相互行為のあり方を  
組み立てている。



(1911-1980)

# 話し言葉の時代

- 〔声〕は発せられると同時に消えてしまう。
- 人びとは同じ空間に居合わせないと、コミュニケーションできない。
- 〔五感〕をすべて働かせた経験。



声は、時間と空間が共有された  
対面状況における相互行為をつなぐ  
メディア。



※同じ時空間に居合わせ、話し言葉で  
コミュニケーションする人たちに  
親密感や相互依存性を作り出す。

# 文字の時代

## ■ 16世紀グーテンベルクによる 〔活版印刷〕技術の発明

- 印刷された本が黙読され、〔視覚〕が中心となった新たな感覚経験の誕生：  
均質性、画一性、直線性、反復可能性  
（視覚による一方的な情報伝達が可能に）
- 印刷された本は、持ち運び可能であり、好きな場所・時間に読むことができる。



文字は、時空間的に離れた人びとをつなぐメディア。

※人びとを狭い時空間における親密な関係から解放つ  
（〔個人主義〕の時代）。

## ナショナリズムの誕生【詳しくは次回】

- なぜ、会ったこともなければ、見たこともない多くの人たちと同じ仲間(日本人)であると、想像できるのか。  
→「**[想像された]**共同体」としての国民
- そうした想像を支えるメディアが**活版印刷**。  
活版印刷により、方言のない「**国語**」(**標準語**)の誕生。
- 標準語(とくに**[新聞]**)を目で読むことで、人びとは同じ言葉を使用する人々が数百、数千万といることを知る。
- 鉄道**によって旅行すれば、標準語によって現地の人とのコミュニケーションが可能になる。

こうして仲間意識が誕生することで、その言葉が通用する範囲が国家、そしてその範囲に生活する人々が国民であるとイメージできるようになった。



# マスコミによる犯罪報道という犯罪 ～プライバシーと人権の侵害～

- 犯罪は[法]によって裁かれるべき。マスコミが裁くのではない。法以外で制裁を加えるのはリンチ。
- 逮捕段階で、容疑者を実名で報道し、容疑者を犯人と認定してしまう(えん罪の可能性があり危険)。
- 法的制裁以上の[社会的]制裁を本人・家族に加えてしまう。
- 裁判に「あいつは凶悪犯だ」といった予断(前もっての判断)を与えてしまう。



**自分＝正義の味方と錯覚したマスメディアによる暴走。**

※インターネット掲示板でも、自分が社会秩序の番人であるとでも思い込んだ人たちが多く見られる。

# コミュニケーション的合理性(J.ハーバーマス)

○ 目的合理性によるコミュニケーション: 他者を目的達成のための「**[ 道具 ]**」として扱ってしまう。

✓ 貨幣や権力などのメディアを行使することで、**他者を理解することなく、効率的に支配しようとする。**

→ システムによる**[ 生活世界の植民地化 ]**:  
**非人格的な社会の秩序化・統合**



(1929-)

○ **[ コミュニケーション的 ]**合理性: 強制を伴わず、議論によって合意を作り出すことで、各人の最初の主観的な考え方を克服し、**相互の理解と承認をもたらす合理性。**

**対等な対話が必要ということだが、今日の私たちがコミュニケーションに苦勞しているのは、本当に貨幣や国家権力といったメディアやシステムの問題だけなのか。**



# 合意しないコミュニケーションも大切(ジンメル)

- 『大都市の精神生活』: 結びついているか / 離れているかのどちらかではなく、結合するから分離し、分離するから結合するという動的な関係を生きている。
- 結合だけの組織はありえない: 内部に[ 闘争 ]という分離があり調停されるなかで、集団内の相互作用が生まれ、組織も活性化する(例: 弱いつながりの重要性)。
- [ 秘密 ]があるからコミュニケーションは楽しい: 男が女を求める→女の方は与えることをほのめかすかと思えば、拒むことをほのめかすことで刺激するか、避けはするものの、すべての望みを奪いはしない(cf. 九鬼周造『いきの構造』)

調和、結合、好意だけの社会が良いという考えは、子どもじみた表面的な考えにすぎない。

## まとめと価値判断

- 一方的な情報伝達は、コミュニケーションの一部のあり方に過ぎない。
- コミュニケーションの意味は、**受け手の反応**の仕方によって決まる。
- 人間による言葉のコミュニケーションの場合は、**あらかじめ受け手の反応を予測**することができる。
- ✓ **コミュニケーションのあり方を変えることで、人の心は変わる。**
- ✓ コミュニケーションをつなぐメディアもまた、**人びとのつながり方(社会)を変えている(詳しくは次回)。**



**自己正当化や情報伝達のためのコミュニケーションだけではなく、自他ともに変化し続けるコミュニケーションとそれを可能にする双方向メディアが求められている。**

## 【復習してみよう】

1. コミュニケーション的合理性について説明しなさい。
2. 「メディアはメッセージである」ことを説明しなさい。
3. 「調和、結合、好意だけの社会が良いという考えは、子どもじみた表面的な考えにすぎない」について、論じなさい。
4. ダブルバインドの是非について論じなさい。